

## 障がい特性に応じた ICT 機器等活用促進事業

特別支援教育課

## 1 目的

障がいのある児童生徒一人ひとりの障がいや認知特性に応じた ICT や AT (アシスティブテクノロジー) の最適な利活用により、個別最適な学びを実現する。

## 〈目指す学び〉

○児童生徒一人ひとりの主体性や興味関心から出発し、児童生徒が満足感や成就感を感じながら自分の長所を伸ばすことができる学び。

## 2 ICT・AT リソースセンター

令和5年度より、県下2ヶ所(長野・松本地区の特別支援学校: ICT活用推進ブロックリーダー配置校)の拠点に、ICT・ATのリソースを整備し、児童生徒一人ひとりに応じたトータル支援を行うための体制を強化し、ICT活用推進ブロックリーダーが中心となり、児童生徒の個々の障がいや認知特性、発達段階等に応じた支援機器や教材の効果的な導入及び活用を推進する。

また、専門家の活用や関係者との連携・協働した研究を行い、専門的知識の吸収・活用や特別支援教育における ICT・AT 分野の発展を図る。

## (1) ICT・AT リソースの整備



## 〈ICT・AT リソースの整備内容(例)〉

□主に高額な ICT 機器、障がい特性に応じた ICT 機器等

・視線入力装置、上腕運動補助装置等

□LD 等、学習上の困難のある児童生徒への支援 (ICT 機器、アセスメント)

・LD 等、各種アセスメント用アプリ等

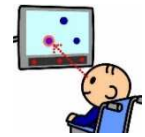
## 〈拠点で選定し、各校で管理するもの(例)〉

□多くの児童生徒に共通するアプリケーションや ICT 機器等

・発達段階や障がい特性にあった各種アプリケーション、タッチペン等

□目的や使い方を各校に説明するための機器やアプリケーション等

・入出力装置、固定具、標準アプリケーション等



⇒ 整備した機器は拠点校2校に配備し、ICT活用推進ブロックリーダーが各特別支援学校を訪問支援する際に活用

## (2) ICT・AT を活用したトータル支援体制の強化

## ① ICT・AT を活用しながら個々のニーズへの支援を強化

- ・相談に対しアセスメントツールを活用し、個々のニーズを把握
- ・アセスメント結果を踏まえ、管理している支援ツールを誰でも気軽に試しながら活用・支援
- ・教員への支援ツール例を提示し、教員の支援力向上
- ・拠点に活用方法等の情報を集約させ、効果的な活用方法(好事例)や ICT・AT 機器に係る最新情報の発信地として機能

② 多様な主体との連携による支援（大学・高専・支援ツール開発業者・専門家等）

- ・外部専門家を活用した効果的な支援方法の研究
- ・外部専門家を活用した人材の育成（ICT活用推進ブロックリーダー、ICT活用推進担当者）

③ ICT・ATリソースの整備、ICT・ATを活用したトータル支援体制の強化による効果

- ・児童生徒の学びの活性化や学びの最適化、将来の自立や社会参加に向けたICTの活用により、今まで支援ができなかった事例の解決
- ・アセスメントにより学習面や生活面での困難さを的確にとらえ、ICTの効果的な活用により児童生徒の困難さを取り除いたり減らしたりし、学びを保障（小中学校・高等学校）

### 3 事業計画

(1) 令和5年度

- ・長野地区・松本地区の2か所を拠点にICT・ATリソースを整備  
ICT活用推進ブロックリーダー4名での体制構築
- ・ICT・AT機器の購入
- ・教員を対象とした外部専門家による機器活用の研修会を開催  
新潟大学 山口氏 … ICT・ATリソースセンターの運営、先進的な機器の活用  
東京大学先端科学技術研究センター 中邑氏、赤松氏  
… 重度重複障がいのある児童生徒へのICT・ATの活用  
北陸大学 河野氏 … 読み書きに困難のある子どもへのテクノロジーの活用